

児童生徒のデータに基づく指導・支援のための実証事業

新規**4,972千円**

AIを活用した新しい教育支援の効果を試験的に検証し、児童生徒一人ひとりに合った支援の実現と教員の負担軽減を目指します。



新しいデータ活用の取り組み

- テスト結果や生活データだけではわからない児童生徒の悩みやSOSを、AI対話アプリで集めます。
- 教員は把握している学習データや出席情報をAI対話アプリに相談。AIは集めた匿名データを分析して学力不振の根本原因を示し、特定生徒の支援を後押しします。

【基礎情報】 児童生徒のデータに基づく指導・支援のための実証事業

◆ 実施体制

- ・ 国立大学法人大阪教育大学との連携事業

◆ スケジュール（予定）

- ・ 令和8年10月～12月 ： 環境構築、モデル校への導入準備
- ・ 令和8年12月～令和9年1月 ： モデル校にて実証運用開始、データ統合・解析

◆ 運用イメージ

- ・ STEP 1：児童生徒がGIGA端末を使い、AIアプリで気分や悩みを気軽に入力。
入力データは匿名化され、安全に蓄積。
- ・ STEP 2：教員は特定生徒の悩みや学力不振の原因をAIに相談。
AIは匿名データから見えにくい原因（心理的SOS等）を分析し、客観的なヒントを提示。
- ・ STEP 3：AIの助言をもとに教員が指導方針を決定し、根本的な解決を目指した支援を行う。

◆ 検証により期待される効果

- ・ 心理的要因など根本原因を客観的データで早期に把握し、不登校などの連鎖を防ぐ。
- ・ 匿名化したデータの相関活用により、教員が児童生徒の悩みや情報収集にかかる時間の軽減。
- ・ 教員の経験だけに頼らず、学校全体で児童生徒の変化に気付き、適切な指導を行う。

【基礎情報】 児童生徒のデータに基づく指導・支援のための実証事業

◆ 概念図

